

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



名古屋大学全学同窓会海外支部歓迎会
平成28年10月20日



上段左：ホームカミングデイ前日の海外支部歓迎会、上段右：名古屋大学体育会メンバーとナゴすけ、下段左：名古屋大学日本法教育センター（ベトナム）設立10周年記念式典終了後の集合写真、下段右：名古屋大学フォーミュラチームFEM（リアウィングに全学同窓会の文字を掲載）
Upper Left: Welcome party for the overseas branches on the eve of Homecoming Day; Upper Right: Nagoya University Athletic Association members with Nagosuke; Bottom Left: Group photo after the ceremony commemorating the 10th anniversary of the establishment of the Nagoya University Research and Education Center for Japanese Law in Vietnam; Bottom Right: Nagoya University Formula Team FEM (driving with the NUAL banner on the rear wing)

Contents

特集1 第13回ホームカミングデイ報告 2
Report on the 13th annual Homecoming Day

特集2 第56回全国七大学総合体育大会
主管開催を経験して 4
Experiencing hosting the 56th Seven Universities
Athletic Meet

同窓会ニュース 5,10
NUAL News

活躍する会員たち 6
NUAL People in Action

事務局からのお知らせ 16
From the NUAL Office

特集では、第13回ホームカミングデイの様々と、同窓会大学支援事業に採択された第56回全国七大学総合体育大会実行委員会の活動をご紹介します。同窓会ニュースでは、ベトナム日本法教育センター設立10周年記念行事とロン全学同窓会ベトナム支部長の司法大臣就任のお祝いの模様、全学同窓会講演会での伊丹先生のご講演の様子をお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、林野庁長官の沖さん、社会と金融の分野でご活躍の田中さんにお話しいただきました。

In our special feature we will report on the 13th annual Homecoming Day, and introduce the activities of the 56th Seven Universities Athletic Meet Executive Committee, a NUAL Support Project. NUAL News will look at events commemorating the 10 year anniversary of the establishment of the Research and Education Center for Japanese Law in Vietnam, celebrations for the appointment of Le Thanh Long, NUAL Vietnam branch head, to the position of Minister of Justice, and Dr. Itami's address at the NUAL Lecture. In NUAL People in Action, we will hear from Mr. Oki, Director-General of the Forestry Agency, and Mr. Tanaka, who is working in the social and financial fields.

第13回ホームカミングデイ報告

Report on the 13th annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会 代表幹事
和田 壽弘



1. はじめに

昨年のホームカミングデイ（HCD）の折の全学同窓会評議員会にて代表幹事に選出されてから、私にとって初めてのホームカミングデイを迎えました。代表幹事就任以前は、出身部局の同窓会行事に関わっていましたので、本部行事については目の当たりにする機会がほとんどなかったのですが、この度は身の引き締まる思いで本部行事に参加しました。

2. 第13回ホームカミングデイ

平成29年10月21日（土）に、「尖った情報技術、やわらかな人間社会」というメインテーマの下に、卒業生、在校生、教職員のみならず近隣住民など一般の方々もお招きしました。当日は残念ながら雨天となりましたが、約4,000名の方々に来訪いただきました。大型台風21号の襲来予報が出されていたのですが、台風の色度が遅くなって、襲来前にホームカミングデイを迎えることができました。あたかも私たちのホームカミングデイを避けてくれたようなこととなり、救われた気分でした。

豊田講堂1階シンポジオンホールでは午前10時から、メイン

テーマに関わる学術講演会が開かれました。若月弘一郎さん（フリーアナウンサー、平成14年情報文化学部卒）の司会で「人工知能を大局的にとらえ、未来を考える」という講演会テーマの下に二人の講師にお話しいただきました。国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問・東京大学名誉教授の甘利俊一先生と国立研究開発法人情報通信研究機構監事・奈良先端科学技術大学院大学理事・株式会社野村総合研究所取締役の土井美和子先生です。

甘利先生は人工知能と心の問題を話され、ロボットが人間の心に合わせて行動できても人間の心を持ち合わせ得ない点を強調されました。土井先生は、人工知能やデータ活用と新しい職種との関わりについて話され、利害関係者との関わりの中で人工知能を捉え直す必要性を指摘されました。講演後には、戸田山和久本学大学院情報科学研究科教授の司会により、両先生に郷通子本学理事が加わって充実した討論が行われました。

午後1時30分には、豊田講堂にてメイン行事の「名古屋大学の集い」が開催されました。若月弘一郎さんの司会で始まり、松尾清一総長と豊田章一郎全学同窓会会長の挨拶に続き、全学同窓会代表幹事として私が、ホームカミングデイの趣旨と実施行事、そして全学同窓会の近況を報告しました。今回は、卒業後10周年、20周年、30周年、40周年、50周年、60周年を迎えられた卒業生・修了生を招き、約320名が参加しました。また、抽選で当選された多くの一般の皆様も参加しました。

国際交流貢献顕彰授賞式では、フィリピン支部のクリスティーノ・ミランダ・コリアードさん（フィリピン大学ロスバニョス校学長補佐・前全学同窓会フィリピン支部長）、ウズベキスタ



学術講演会



左から豊田会長、松尾総長、和田代表幹事



国際交流貢献顕彰受賞者との記念写真



海外支部歓迎会

ン支部長のバホディール・メルガノフさん（ウズベキスタン中央銀行部長）、リジャン・バクタ・カヤスタさん（ネパール・カトマンズ大学准教授）の3名が受賞され、表彰状と記念品が贈られました。

続いて「名古屋大学の集い」の後半では、名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートを堪能しました。今回は、初めて海外の指揮者をお招きしてのコンサートでした。ラルフ・ワイケルトさんはオーストリアを代表する指揮者で、歌劇のみならずコンサートでも高い評価を受けています。「ベートーヴェン：序曲『コリオラン』作品62」「モーツァルト：フルート協奏曲第1番」「ベートーヴェン：交響曲第2番ニ長調作品36」が演じられ、夢のような時を過ごしました。若手で活躍中のフルーティスト上野星矢さんによるソロ演奏があり、美しい音色に酔いしれました。

豊田講堂以外の会場では、各部局および同窓会の行事がとり行われ、施設の公開もありました。チラシでは「保護

者向け行事」「同窓生向け行事」「一般向け行事」に分類されて表示され、各行事のタイトル・場所・時間帯が一目で判別できるようになって、とても便利でした。市民公開講座は、「HeForShe セミナー」を始め、ノーベル賞受賞者の天野浩教授による講演を含めて19ほど開かれ、盛況でした。例年の本のリユース市、農産物の販売、スパコン見学、あかりんご隊科学実験、親子ふれあいサッカー教室なども盛況でした。

ホームカミングデイ前日の夕刻には、翌日に国際交流貢献顕彰を受けられる方々を迎えて、全学同窓会による海外支部歓迎会を持ちました。豊田章一郎会長、岡田邦彦副会長、齋藤英彦副会長の参加の下、松尾総長および役員の方々にもお出でいただき、受賞者と本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

来年こそは天候に恵まれて、より多くの方々にホームカミングデイに来場いただき、盛り沢山の行事を堪能していただけることを祈念しております。



名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート（指揮 ラルフ・ワイケルト氏、フルート 上野星矢氏）

第56回全国七大学総合体育大会主管開催を経験して *Experiencing hosting the 56th Seven Universities Athletic Meet*

平成28年度第2回全学同窓会大学支援事業に採択された第56回全国七大学総合体育大会実行委員会の活動をご紹介します。

We asked about the activities of the 56th Seven Universities Athletic Meet Executive Committee, which was selected as a NUAL support project for the second time in 2016.

第56回全国七大学総合体育大会実行委員会 実行委員長
名古屋大学法学部4年 桑山 晃久

2017年は全国七大学総合体育大会、通称「七大学戦」が名古屋大学主管で開催されました。七大学戦とは、旧帝国大学と呼ばれていた7つの大学による、ポイント制で順位を競う総合体育大会です。七大学戦は1962年に第1回大会が行われ、今回で第56回大会を迎える伝統ある大会で、全42競技が存在し、七大学のほとんどの運動部が参加しております。旧帝国大学と呼ばれた七大学が、スポーツで覇を競う七大学戦は毎年大変盛り上がります。今年もどの競技でも、文武両道の学生達が一生懸命プレーし、結果に対して喜んだり、悔し涙を流したりと多くのドラマが生まれました。

さて、七大学戦を運営するために、毎年主管大学を中心に七大学戦実行委員会が組織されます。実行委員会は学生のみで構成されており、主管大学を中心に、7大学の体育会メンバーで構成されております。「真のアマチュアリズムの追及」、「競技レベルの向上」、「他大学との親睦をはかる」などの大会理念や大会規約を基に、7大学全体で七大学戦をより良い大会にするため、活動しております。

今回は、名古屋大学主管ということで、私たち名古屋大学体育会のメンバーが中心となり、会場や日程、金銭

面等での各競技の試合運営のサポートや、開・閉会式等式典の運営、広報など様々な活動を通して、七大学戦を盛り上げるため尽力してきました。その一環として、名古屋大学全学同窓会にも支援していただくことができ、大会マスコットである「ナゴすけ」の着ぐるみ作成も行いました。

私はこれまで小学校から大学までの約13年間野球を続けてきて、大会に選手として参加したことは多くありましたが、今回初めて大きな大会の運営側を経験することができました。この経験を通して、非常に多くの人力を借りて大きなプロジェクトを成功させることの大変さとそのやりがいの大きさを実感しました。また、数々の運動部の活躍する姿を見て、名古屋大学にはこんなにも一生懸命に自分たちの夢や目標に向き合っている文武両道の学生が多くいるのだということに感動しました。名古屋大学には学業だけでなく、課外活動に尽力している学生がたくさんいます。彼らが大学生活で生きがいを見つけ、決して利益目的でない何か重要なものを追い求める姿を、今後とも温かく見守っていただきたいです。



七大学の同期のメンバーとナゴすけ

名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告

「チカラある分子をつくる」(講師：伊丹健一郎名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所(ITbM) 拠点長)

名古屋大学全学同窓会 代表幹事

和田 壽弘

名古屋大学全学同窓会講演会が平成29年12月5日(火)に、理学南館坂田・平田ホールにおいて開催されました。今回で4回目を迎えます。全学同窓会と一般社団法人学士会との共催で、本学の後援を受け、約160名の参加がありました。これまでの講師には、丹羽宇一郎全学同窓会副会長、宮池克人全学同窓会副会長、濱口道成本学前総長をお招きしました。今回は、本学の伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長に、「チカラある分子をつくる」という題でお話いただきました。

冒頭に伊丹先生は自己紹介を兼ねて、拠点長をお務めの研究所を紹介されました。2012年に文部科学省による「世界トップレベル研究拠点」として認められ、昨年度の中間評価では最高の「S評価」を受けました。個別の研究室を設けず物理的な壁を取り除いて、国籍や世代を超えて研究者が集い、自由闊達に議論可能な空間を創出したとのことでした。目標は「現代が抱える諸問題に分子を使って回答を見つける」ことであるとし、そのために合成化学・分子触媒を推進し異分野融合を目指すことを手段とするのであって、決してこの手段が最終目標ではないことを強調されました。合成化学の例では、昨年4月のNHKのテレビニュースで、伊丹先生のグループが世界で初めてカーボンナノベルトの合成に成功したことが報じられました。この合成がもたらす意義を伺って将来の大きな可能性に触れることができました。また、新しい分子合成によって、アフリカ大陸での食糧問題を引き起こしている寄生植物ストライガへの対策となる例や、



講演会

時差ぼけ解消の可能性の例などを伺って、研究の重要性を強く認識しました。講演後のアンケートでも分かりやすかったという感想が多数ありました。

講演会後にグリーンサロン東山において夕食会が開催され、20名が参加しました。岡田邦彦全学同窓会副会長の開会挨拶で始まり、松尾清一総長と学士会理事長代理として片岡大造同会代議員に挨拶いただき、そして木村彰吾本学理事に乾杯の発声をしていただきました。田中清隆全学同窓会監事、南方陽遠州会会長、渡辺幸重学士会事務局長にも挨拶をお願いし、最後に伊藤義人副会長の閉会の挨拶がありました。夕食会は親睦を深めただけでなく、全学同窓会への要望も出されて、同窓会の発展にとっても意義あるものとなりました。



力強く講演する伊丹拠点長



岡田副会長の夕食会での挨拶

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第29回は、農学部を卒業され林野庁長官としてご活躍の沖修司さん、大学院国際開発研究科で修士の学位を取得され、社会と金融の最前線でご活躍の田中大毅さんにお話しいただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni working in various fields. In this 29th edition, we hear from Director-General of the Forestry Agency, Mr. Syuji Oki, a graduate of the School of Agricultural Sciences, as well as Mr. Daiki Tanaka, who received his master's from the Graduate School of International Development and is now working at the forefront of the social and financial fields.

おき しゅうじ
沖 修司さん



■略歴

昭和31年9月5日 東京都生まれ
昭和54年3月 名古屋大学農学部林学科卒業
昭和54年4月 農林水産省入省
昭和63年4月 今金営林署長
平成2年4月 函館営林支局企画調整室長
平成4年4月 林野庁林政部企画課課長補佐（年次報告班担当）
平成6年4月 林野庁業務部業務第二課課長補佐（土地利用班担当）
平成7年4月 鳥取県農林水産部森林保全課長
平成10年4月 林野庁指導部研究普及課課長補佐（総括）
平成12年2月 北海道森林管理局業務管理官（事業担当帯広分局）
平成13年4月 林野庁国有林野部業務課技術開発調査官
平成16年7月 林野庁国有林野部業務課長
平成20年1月 林野庁国有林野部経営企画課長
平成21年10月 九州森林管理局長
平成23年8月 林野庁国有林野部長
平成26年7月 林野庁次長
平成29年7月 林野庁長官

森林と共に生きる

1 林学職国家公務員

昭和54年3月に名古屋大学農学部林学科を卒業し、4月に農林水産省の外局である林野庁に技術系の林学職国家公務員として入庁しました。それ以降、公務員生活は今年で足掛け40年になります。

林野庁は、我が国の森林・林業・木材産業の発展と約760万haの国有林の管理・経営を担当する国の機関です。採用以降は、林野庁と3年間出向した経済企画庁のある東京を中心に、秋田県秋田市、山形県舟形町、北海道今金町・函館市・帯広市、熊本県熊本市に置かれた林野庁の地方支分部局と鳥取県庁に勤務しました。国有林の勤務では、北は北海道から南は沖縄県までを管轄区域としていたことから、国内の亜寒帯林から亜熱帯林にまで足を運び、地域の林業・木材産業を自らの目で確認できたことは、林学職国家公務員として極めて有意義な勤務経験とな

り現在ある自分の基礎となっています。

先日、改めて自分の誕生以降過ごした箇所を水平距離で積算してみたところ、その総距離は約9千kmにもなりました。これは、我が国の南北端を結んだ距離である約3千kmの3倍にも当たり、我が国を一往復半したことになります。我ながらよく移動した物と思います。家族には苦勞をかけたことは確かで、これまで支えてくれたことに感謝です。

2 大学生時代に学んだこと

大学生になって意識が大きく変化したのは、学業、私生活ともに「自ら考え自らの意思で行動する」といった自立意識の確立です。それに必要な知識、技術を学び、不明なことはデータ収集とその分析・推計により科学的に対処方向を定める「物事を考え整理していくプロセス」を学びました。



愛車のロードバイクでサイクリング

私は幼少の頃から昆虫に興味を持っていました。「昆虫が好きです」は、大人になればなるほど人前で言うのに勇気が要ります。この昆虫好きは今でも変わっていませんし、そもそも林野庁に就職した理由も昆虫好きが影響しています。特に、大学生時代にはオサムシに没頭しました。その端緒は、北海道で出会ったアイヌキンオサムシとオオルリオサムシです。「オサムシは何処に生息しているのか」、「トラップは何処に設置したら良いのか」、「トラップ液は何が効果的なのか」等々、様々な条件を想定し仮説を立て現場で確認する、オサムシに出会うためにひたすらこれを繰り返しました。こうしたやり方は今でも業務遂行の対処方法の原点となっています。ある意味、オサムシが自分を教育してくれたのではないかと思います。

今でもオサムシは大好きです。オサムシは全国の森林に生息しており、彼らに出会った時には思わず心が弾みます。昆虫が趣味という人はどちらかという職場では変人の扱いです。しかし、昆虫を通じて様々な人と出会い、自分の人生をととても豊かなものになっています。

3 職場における現場主義

私の業務の進め方は、現場主義が中心となっています。その基本は、3つの事項で構成されています。1つ目は「現場を確認すること」、2つ目は「技術革新を追求すること」、3つ目は「挑戦を諦めないこと」です。今回は、特に「技術革新を迫及すること」について言及します。

資源が貧しく、今後急速に人口減少が進む我が国では、技術革新（イノベーション）無くして成長は



林野庁長官室にて

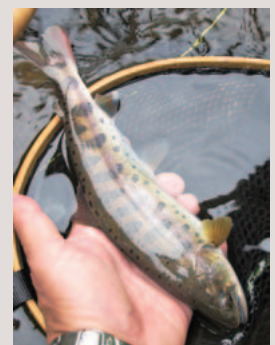
あり得ません。森林・林業分野についても、積極的に対応していく必要があります。

特に、森林は我が国における唯一の自給かつ持続的再生産可能な資源であり、林業は森林の公益的機能発揮を前提にその維持・造成と木材利用を担っています。この持続的再生産は、森林所有者（川上）から製材工場等（川下）に至る関係者が森林資源を通じて運命共同体であるとともに、それぞれの立場で50年後の国民に責任を持たなければならないことを意味しています。その際、Sustainable Forest Managementを前提とすることは当然であり、今後はSustainable Wood Value-chainを早急に確立していくことが求められています。

こうした取組を進めるに当たっては、森林と林業の間に存在する森林生態から木材利用、更には地域政策に至る幅広い分野の課題を解決していく必要があります。そのため絶え間ない技術革新の追求が不可欠となっているのです。



趣味のフライフィッシングでは手作りのバンブーロッドを愛用



釣った魚（ヤマメ）

たなか だいき
田中 大毅さん



■略歴

2014年3月 国際開発研究科国際協力専攻博士前期課程修了（伊東ゼミ）
2014年4月 （株）三菱東京 UFJ 銀行入行
2017年7月 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券(株) 出向

広がる国際開発のフィールド～ある金融マンの一例～

2014年3月に国際開発研究科（GSID）・国際協力専攻を卒業しました。現在は銀行からの出向で証券会社に在籍しています。この場をお借りして、入学時から現在に至るまでの私のキャリアを紹介させていただきます。

【GSID 在籍時】

2012年4月にGSID 国際協力専攻に入学し、伊東早苗先生のゼミに配属となりました。入学当初の研究テーマはアジアのマイクロファイナンスでしたが、研究や現地視察を重ねる中で、貧困層の市場経済への統合をより俯瞰的に観察したいとの思いから、研究対象を中小企業金融にまで広げました。在学中は



グラミン銀行でのフィールドワーク
(ちなみに、この後デング熱を発症し、入院の憂き目に…今となってはいい思い出(?)です。)

JICA やグラミン銀行にお世話になりながら、主にネパール・バングラデシュの貧困層向けの金融の現場を視察してきました。また研究の傍らで、留学生の友人宅で母国料理を堪能したり、彼らを野球観戦に招待したりと、GSIDのグローバルな環境も満喫していました。素晴らしい仲間にも恵まれ毎日が刺激的でかけがえのない学生生活でした。

【銀行に就職】

修論研究を終え、今後はプレーヤーとして途上国金融に関わりたいと考え、アジアへの進出に積極的な都市銀行へ就職を決めました。

最初の配属先は、日本橋での金融機関向け法人営業でした。今だから言えることですが、最初の2年間くらいは失敗続きで、「なんでこんなにもうまくいかないのだろう…(泣)」とものがき苦しみ、とことん悩んでいました。幸い、ここでも素晴らしい同期や先輩方に巡り合い、周囲に支えられながら少しずつ法人営業のスキルを身につけていきました。

慌ただしい毎日の中で、学生時代の思いを忘れかけていた頃、新たに担当したとある証券会社のお客様が、アジアの某国でマイクロファイナンスを手掛けていることを知りました。かつての夢が再び沸き起こり、何とかこのお客様の事業のお手伝いをしたいという思いが芽生えました。今となっては無謀だったと思いますが、様々なリスクを抱える中で思い切って審査担当に案件相談したり、支援に後ろ向きな海外支店のスタッフを粘り強く説得したり、海外出張のアポイントを半ば強引に取り付けたりと、できることは何でもやりました。「よし現地に行っ



会社員人生の出発点となった、日本橋のオフィス。麒麟の像で有名な日本橋に続く写真手前の道路を箱根駅伝の選手が走り抜けます。

てマイクロファイナンスをもう一度見てみよう」と、張り切って出張の予定を立てていた矢先に、人事異動が発令されました。

【新たなフィールドは証券会社】

入社以来一貫して海外勤務を希望していたので、「もしかしたら…」との期待もありましたが、異動先（現部署）は同じ企業グループの証券会社でした。

私の現在の仕事は債券の引受です。いわゆる投資銀行業務の一つで、事業法人や政府系機関（＝発行体）の資金調達ニーズを受け、市場実勢を見据えながら適切な条件で債券を発行し、機関投資家に販売をします。銀行は間接金融市場における資金の出し手ですが、証券会社は直接金融市場において発行体と投資家を繋ぐ重要な役目を果たしています。取り扱う債券の額も、お客様から頂く手数料も巨額なものになり、非常に緊張感のある環境ですが、市場の中心でプロのお客様を相手に金融業務に携わることができるというダイナミズムを感じながら、刺激的な日々を送ることができています。

【社会と金融】

投資銀行と聞くと、日米欧先進国のマネーゲームの様相を連想される方もいるかもしれません。しかしこうした金融の世界でも、開発や社会貢献を強く意識する場面はたくさんあります。

現在私の職場では、SDGs（国連の持続可能な開発目標）や ESG 投資（環境、社会、企業統治に配慮した投資）が大きなビジネスチャンスとなっています。今や欧米や（一部の）日本の機関投資家は、金銭的なリターンのみならず、自分たちの投資先が真に社会の役に立っているか、非常に高い関心を持っています。まだまだ社会の末端にまで投資マネーが向かっているとは言い難い状況ですが、将来、金融が世界の諸問題の解決に際し重要な役割を果たすことになるかもしれません。そのような大きなうねりの中でプレイヤーとして市場の最前線に携わることができ、有難い機会をいただけたと思っています。

【将来は…】

学生時代は、アジアの貧困層の最前線で金融に携わることこそが社会貢献であり自己実現だと考えていました。ですが日本の会社で働いて、色々な世界を見る中で、GSID での学びを活かし、（やや大層ですが）世界の諸問題の解決に貢献する道は多様にあることを知りました。もちろん海外で活躍することは今でも私の夢ではありますが、これからどこでどんな仕事をしていようとも、自分の仕事がどのような形で社会と繋がっているのか、企業市民としてよく考えながら仕事に向き合っていければと思っています。

ベトナム日本法教育研究センター設立10周年記念行事、 レ・ティエン・ロン司法大臣（全学同窓会ベトナム支部長）との交流会

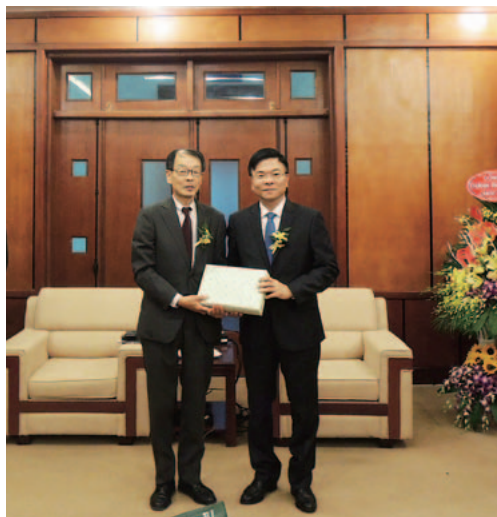
名古屋大学全学同窓会 連携委員会委員長

中野 富夫

2017年11月15日（水）にベトナムの首都ハノイで開催された、名古屋大学日本法教育研究センター（ベトナム）設立10周年記念式典およびレ・ティエン・ロン全学同窓会ベトナム支部長の司法大臣就任（2016年4月）のお祝いに、全学同窓会和田壽弘代表幹事の代理として出席しました。今回の行事は、法学部同窓会が共催し、全学同窓会が支援事業として助成および後援をしています。ロン司法大臣は、法学研究科修士生であり、2007年に全学同窓会がベトナム支部を設立した当初から支部長を務められています。

現在ベトナムでは、本学の同窓生が、国家機関、法曹、日系企業を含む民間企業等各界で幅広く活躍しています。今回大学からは、松尾清一総長、石井三記法学部長他約10名、法学部同窓会からは、杉浦一孝副理事長（名誉教授）、また本行事に共催・助成頂いた十六銀行村瀬幸雄頭取（法学部同窓生）、関係官庁の代表等も含め総勢約40名が、ハノイを訪問しました。当日は、日本法教育研究センターが設置されている司法省傘下のハノイ法科大学において記念シンポジウム及び10周年記念式典が行われました。式典の前に、ハノイ法科大学2階の特別室に、松尾総長以下関係者が、ロン大臣を訪問して、大臣就任のお祝いを行いました。全学同窓会からは、私が、和田

代表幹事の祝辞を代読するとともに記念品をお渡ししました。その後4階の式典室にて、記念式典が開催されました。式典は、レ・ティエン・チュウ学長、松尾総長の挨拶の後、ロン大臣から本学の法整備支援事業に対する謝辞が述べられました。続いて、上川陽子法務大臣（代読）、川端和明文部科学省国際統括官、十六銀行村瀬頭取から祝辞が述べられ、午後5時頃式典は終了しました。その後午後6時から、日本大使公邸にて、祝賀会パーティが開かれ約80名が参加しました。パーティでは梅田邦夫駐ベトナム特命全権大使が、祝辞を述べられ本学による当地での人材教育を高く評価されました。また翌16日（木）午後6時半から、ハノイ市内のレストランで、名古屋大学同窓会が開催されて、約40名のベトナム同窓生が参加しました。同窓会は、松尾総長のあいさつで開始し、石井法学部長の音頭での乾杯があり、その後懇親会に移りました。宴もたけなわの頃に、出席した同窓生全員が近況報告を行い、和気あいの雰囲気の中で会は進行了しました。10年前のベトナム支部設立総会には、私も出席していましたが、その時参加してくれた若手の同窓生が、現在は、政府機関や企業の幹部として活躍していることに、感慨深いものがありました。午後8時半頃に名残を惜しみつつ会は終了して、我々一行は空港に向いました。



記念品贈呈



名古屋大学ベトナム同窓会

大学支援事業目録贈呈

平成29年11月2日（木）、平成29年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成29年度第1回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、12件の応募から、表の6件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

平成29年度第1回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
法政国際教育協力研究センター・センター長	小畑 郁	ホー・ベン国立経営大学学長の外務大臣表彰及びカンボジア日本法教育研究センター設立10周年記念祝賀会
情報文化学部自然情報科学部3年生	謝 昊辰	名古屋大学2017年度秋季参加型競技プログラミング大会
学生相談総合センター准教授	船津 静代	「就サポ presents 学生×卒業生交流会～これからのキャリアについて考えよう～」
工学部物理工学科材料工学コース3年	松浦 健人	宇宙教育活動の推進
大学院情報学研究科長	村瀬 洋	学術講演会「人工知能を大局的にとらえ、未来を考える」及び関連展示企画「情報を体験しよう」
国際開発研究科国際開発専攻 修士1年	リ・チェルノ	名古屋大学アフリカ学生会設立プロジェクト



採択された事業代表者の方々

名大男声東京 OB 合唱団2018演奏会

今年1月14日、三鷹市芸術文化センター 風のホールで3回目の単独演奏会を行いました。休憩前の全員合唱「ふるさと」の歌声が会場一杯に響き渡り、演奏会を更に盛り上げてくれました。学生時代に経験した仲間と歌う喜び、お客様と分かち合う感動をまた味わいたくなり、東京での合唱団活動を始めて15年、一昨年は全学同窓会関東支部主催の天野教授ノーベル賞受賞記念講演・交流会に特別演奏で参加し、ご出席の皆様と学生歌「若き我等」を一緒に歌ったことも思い出です。平均年齢72才、全曲暗譜とはなりませんでしたが納得のできた演奏会でした。お客様にも喜んで頂けた演奏会であったと思います。次の演奏会を期待する声も多く寄せられ、まだまだ頑張らねばと団員一同また練習に取り組んでいます。いつでも団員募集中です。名大出身・男性であればOK、合唱経験は問いません。練習場所は主に高円寺です。詳しくは合唱団のホームページをご覧ください。これまでの活動や演奏なども紹介しています。

■名大男声東京 OB 合唱団

HP : <http://eyatto2014.web.fc2.com>

連絡先 名大男声東京 OB 合唱団 木谷 孝

E-mail kitani423@nifty.com



会場と一緒に歌った「ふるさと」

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、今年で設立15年となります。東京神田の「学士会館」地下にある、「名古屋大学東京連絡所」において、随時、各部局同窓会関東支部幹事による幹事会を開催し、部局間の連携を深めるべく努力しております。

本年度の活動について、いくつかご紹介いたします。

・2月2日に幹事会を開催し、丹羽宇一郎支部長以下、幹事、顧問、監事15名が参集いたしました。

幹事会では、伊藤義人副会長にお越しいただき、「最近の名古屋大学と全学同窓会の状況」についてご紹介をいただきました。その後の夕食懇親会においては、初めて顔を合

わす方もある中、忌憚ない活発な意見交換が行われました。

・10月21日の第13回ホームカミングデイ・各部局行事に参加いたしました。

・12月5日、坂田・平田ホールにて開催された第4回全学同窓会・学士会共催「講演会・夕食会」に参加し、同窓会本部・各支部の方々とは意見交換を行いました。

・学士会との連携をとっています。

■連絡先 関東支部事務局長 岸 徹

E-mail kishi8678tr@ra2.so-net.ne.jp



関東支部幹事会 学士会館にて

国際言語文化研究科同窓会

国際言語文化研究科同窓会では、2017年10月21日（土）のホームカミングデイで市民公開講座「～日本から見つめるわたしの国～」を開催しました。今回は世界各国から来た8名の留学生に母国のことについて話していただきました。講師と講演のタイトルは次のとおりです。

・リュウ・ガン・ツ・ウエン（ベトナム）

「ベトナムからあこがれの日本へ」

・于 劭贇（中国）「2つの記号に見る中国と日本のつながり」

・朴 智娟（韓国）「ことばから見る韓国人と韓国文化」

・クロヤン・ルイザ（アルメニア）

「南コーカサスの小国、アルメニアの深さ」

・レニン・グティエレス（メキシコ）「日本人の知らないメキシコ」

・シャフバーズィー・ヤセル（イラン）「イラン人の目で見える日本」

・アッサラー・ムハンナド（サウジアラビア）

「日本とサウジアラビアを見た私」

・シャルマ・アルン（インド）「本当のインドを知る」

・司会：志波彩子（日本）

応用言語学講座／日本語教育学分野准教授

公開講座の後はオープンホールでティーパーティーを行い、修了生・在学生・教員の交流を行いました。

■連絡先 人文学研究科（旧国際言語文化研究科）

教授 杉村 泰

E-mail sugimurayasushi@nagoya-u.jp

http://www.hum.nagoya-u.ac.jp/



ホームカミングデイの市民公開講座

フィリピン支部 NUAL Philippine Branch

国際開発と人間の安全保障フォーラム

NUAL-PHとDLSU 国際学部による開催

2017年10月14日（9:00 AM - 11:30 AM）にマニラ市のデ・ラ・サール大学（DLSU）ヘンリサイシニア講堂12階のアニモ・ラボで開催された『国際開発と人間の安全保障フォーラム—教育学・健康学・労働学の観点から』にて、名古屋大学の教員1人と卒業生2人が発表を行いました。本フォーラムは、名古屋大学全学同窓会フィリピン支部（NUAL-PH）により計画、DLSU 国際学部により主催され、同学部学部長および NUAL-PH 副幹事の Ron Bridget Vilog 博士が司会者を務めました。開会の辞は、NUAL-PH 会長 Pag-asa Gaspillo 博士が行い、NUAL-PH の活動である「産業、政府、学術界間交流と情報交換」と「NUAL-PH 内外の卒業生、在学生、教師間の友情と協同」について紹介しました。

アテネオ・デ・マニラ大学、ファー・イースタン大学、ザ・イースト大学、DLSU など多くの教育機関からの参加があり、NUAL-PH の代表者・会員卒業生と併せて約50人がフォーラムに参加しました。

Forum on Global Development and Human Security organized by NUAL-PH and DLSU International Studies Department

Two alumni and one visiting professor from Nagoya University delivered lectures during the Forum on "Global Development and Human Security: Perspectives from Education, Health and Labor Studies" held on October 14, 2017 (9:00 AM - 11:30 AM) at the Animo Lab, 12th Floor, Henry Sy Sr. Hall, De La Salle University, Manila. The forum was spearheaded by the Nagoya University Alumni Association - Philippine Branch (NUAL-PH) and hosted by DLSU International Studies Department led by the department chair and also asst. secretary of NUAL-PH, Dr.

Ron Bridget Vilog.

Dr. Pag-asa Gaspillo, president of NUAL-PH opened the forum with her remarks introducing NUAL-PH and its mission of networking and exchange of information with industry, government, research and educational institutions and “bridging friendship and collaboration among alumni, students and teachers within NUAL- PH and among NUAL branches.”

The speakers of the forum and their topics were:

- **Education: Facing Educational Inequalities across the Globe**
Dr. Takayo Ogisu (Asst. Professor, GSID, Nagoya University)
Visiting Professor, DLSU International Studies Department
- **Health: The Impacts of HIV and AIDS Research: The Philippines in Spotlight**
Dr. Neil Tan Gana (PhD Medicine 2010, Nagoya University)
Asst. Professor, Department of Biology, Ateneo De Manila University
- **Labor Studies: Typology of Returning Migrant Workers**
Ms. Brenalyn Peji (GSID, 2013, Nagoya University)
Institute of Labor Studies, Department of Labor and Employment

After the lectures, Mr. Toshiyuki Taguchi of the Japan Information and Culture Center (JICC) promoted Japanese education and the Japanese Government Scholarships while the closing remarks was delivered by Mr. Ken Nakamura of the JICC.

The forum was attended by about 50 participants – coming from various schools like Ateneo De Manila University, Far Eastern University, University of the East and DLSU. NUAL-PH Officers and alumni were also present.



NUAL-PH 代表者および発表者
(The NUAL-PH Officers and Resource Speakers)

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

名古屋大学フォーミュラチーム FEM EV プロジェクト

申請代表者：三久保 瑛
(工学部機械航空工学科機械システム工学コース4年)

私たち名古屋大学フォーミュラチーム FEM は2003年のチーム結成から毎年9月に開催されている全日本学生フォーミュラ大会に参戦しています。2014年大会では国内外96チームの参加のなかで総合優勝、経済産業大臣賞受賞を果たしております。私たちは更なるチームの発展を目指すためにこれまでのガソリン車による参戦から電気自動車（EV）への参戦に切り替えました。切り替え初年度となる2017年大会に向けて、全学同窓会様からのご支援のもと電気自動車の製作に不可欠となる絶縁工具などの購入を行いました。

さて、私たちが初めて製作した EV には、日産自動車様より無償貸与いただいた、日産リーフのモータ / インバータを搭載しました。また、コンピュータによる空力解析を行ったエアロデバイスの採用、加速性能を向上させるための自作トラクションコントロールシステムの開発といった工夫を積み重ね車両を製作しました。これらによって全98チーム（うち海外24チーム）が参加した第15回全日本学生フォーミュラ大会において、ベスト CAE（コンピュータ解析）賞3位や、加速性能を競うアクセラレーション競技で3位を獲得することができました。また、車両の設計について、その妥当性や狙いをカーメーカーのエンジニアとディスカッションを行うデザイン審査で

は2位、車両を用いたビジネスモデルや利益計画についての提案を行うプレゼンテーション審査では1位をいただくことができました。結果としてこれらの種目別成績を合わせた総合成績として、EV クラス優勝を果たすことができました。また、ガソリン車を含めた総合では4位に入ることができ、EV 時代の始まりを告げることができました。EV 初年度にも関わらず好成績を残せたことが評価され、特別賞として国土交通大臣賞や静岡県知事賞といった賞もいただくことができました。全学同窓会様をはじめ多くのスポンサーに支えられてこの好成績を残すことができました。誠にありがとうございました。

さて、私たちフォーミュラチーム FEM は、よりハイレベルな争いをしている欧州の大学、近年台頭してきたアジア圏の大学に「勝つ」ために中期計画を策定し、常に数年先を見据えた活動を行っています。そのために個人、法人問わず資金面、技術面でサポートしていただける方々を探しています。支援したい、詳しく話を聞いてみたいと感じていただけた方はお気軽にお問合せいただければと思います。



チーム集合写真

大学の国際化に貢献する学生のためのエンパ ワメントプログラム Inspire Together グロー バルピアサポーターのためのリーダーシップ研修

申請代表者：高木ひとみ
(国際機構 国際教育交流センター アドバイジング部門)

名古屋大学はスーパーグローバル大学創成事業（TGU）の採択によって、外国人留学生の受入を推進し、学生たちが海外で学ぶ機会をより多く得られるように改革を進めており、多様な学生の学びの場の創出が求められている。学生のなかには英語を用いて学位取得を目指すものや、海外で教育を受けた日本人学生の入学者も増えており、多文化共生型のキャンパスとして改善・発展させる必要がある。こうした課題解決に向けて、全学同窓会大学支援事業の支援を受け、学生たちが大学の国際化に主体的に関わり、また卒業後も国際社会において指導的な役割を果たす人材として活躍するための合宿研修「Inspire Together」を企画開催した。同研修は、2017年3月に立命館大学いばらきキャンパスセミナーハウスにおいて、立命館大学と合同開催された。また、同年7月18日には国連職員をゲストスピーカーに招聘し、「世界と関わる生き方」をテーマにフォローアップ研修を実施した。

合宿研修には、国際交流活動に携わっている学生や関心を持っている学生34名が参加した（名古屋大学15名、立命館大学19名）。企画・運営は名古屋大学学生実行委員8名が中心に担った。合宿1日目は、学生たちが互いの大学における国際交流活動の取組みに関するポスターセッションを行い、その後グループに分かれて、国際交流活動に携わる際の課題やニーズについて討議し、解決策について議論した。その後、モチベーショングラフ作成を用いたセルフ・リフレクションを実施し、学習内容の強化と自己理解・他者理解の促進を図った。2日目は、リーダーシップの理論について学び、リーダーシップのスタイルについて検討した。その後、学生時代に国際交流活動に携わり、現在は社会人として活躍している卒業生を招いて、参加者とともに今後のキャリアア



合宿参加者全体集合写真

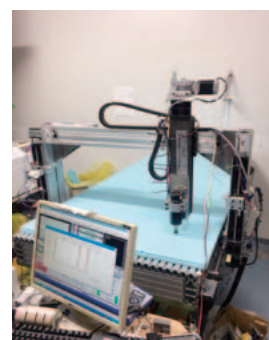
ンについて検討した。

合宿を通して、参加学生たちは国際交流に携わることの価値、方法、課題等についての理解を深めることができた。また、立命館大学との合同開催により、学生間にネットワークが生まれ、その後の活動においても大きな相乗効果がえられた。本支援により、学生を主体としたキャンパスの国際化プログラムの開発の基盤の構築が図られたと考えている。今後もプログラムのさらなる改善と評価分析を進めていく予定である。

名古屋大学人力飛行機製作サークル AirCraft 鳥人間 コンテスト出場、優勝に向けての人力飛行機の製作、運用

申請代表者：森部天仁
(工学部環境土木建築学科環境土木学コース2年)

多くの団体が手作業で人力飛行機を製作している中、本サークルでは昨年より作業の精度の向上、効率化による期間短縮を目指し半自動でパーツを削り出す工作機械を導入することになりました。しかし、例年通りの会計であればその費用を賄うことが難しい状況でした。そこでこの全学同窓会による支援を受けそれを機体の材料費の内、最も多くの部分を占める高弾性プリプレグの購入に充てることでより大型のCNCとレーザー加工機の購入費用を賄うことができました。今年度より本サークルが出場していた部門がなくなることが製作途中に発表され、通常残りの期間ではプロジェクトを進めることは困難でしたが、同じ状況の他団体が出場できない中で、我々は工作機械を利用したことにより新しい部門でも十分に戦える性能を持った機体を完成させることができました。しかし、本番では例年とは違った状況の中、パイロットへ出す指示を誤ったため途中で機体が墜落し、記録に残るような結果を残すことは出来ませんでした。ですが、今回大会に出場したことで今までほぼ出場記録のなかった部門でのデータを多く収集することができました。今後鳥人間コンテストで戦っていく中で、これは大きな一歩であったと言えます。



本年度より導入した卓上 CNC

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 東山会関東支部第11回総会

機械系同窓会の関東支部総会です。内山田竹志トヨタ自動車会長の特別講演を計画しております。

日 時：5月12日（土） 13:00～17:00

会 費：8,000円

場 所：学士会館にて <https://www.gakushikaikan.co.jp/>

詳細は、関東支部 HP: <http://www.higashiyamakai-kanto.com/>

問い合わせは支部長山本まで。

E-mail: yamamotoma3@jcom.home.ne.jp

2) 東京キタン会（経済学部）

5月23日（水）東京キタン会ゴルフ会、川越グリーンクロス

6月23日（土）東京キタン会定時総会、学士会館

10月3日（水）東京キタン会ゴルフ会、川越グリーンクロス

11月中旬東京キタン会秋の催事、内容未定

*詳細は WebSite、<https://tokyo-kitankai.jimdo.com/> を参照下さい。

3) 名古屋大学医学部学友会首都圏総会

名大からは八木哲也教授をお招きし、首都圏支部からは順天堂大学の板倉敦夫教授をお招きして講演をお願いしております。

日 時：平成30年7月14日（土） 16:00～

場 所：学士会館

主 催：名古屋大学医学部学友会首都圏支部会

連絡先：支部長 松田達男 090-9206-0567

matudatatuo@gmail.com

4) 共晶会関東支部第33回総会

特別講演として、名古屋大学大学院工学研究科教授足立吉隆先生を予定しております。

日 時：平成30年11月11日（日） 11:00～14:30

場 所：学士会館 302号室

連絡先：黒岩和典（1977年戸澤研卒）

kuroiwa779618@gmail.com

kuroiwa@angel.ocn.ne.jp

5) 平成30年度鏡ヶ池会東京支部総会

土木系卒業生の同窓会である鏡ヶ池会の東京支部（会員600名以上）の年間最大行事である支部総会です。100名を超える参加があり、老若問わず交流しています。

日 時：平成30年11月16日（金） 18:30～20:30

場 所：主婦会館プラザエフ 地下2階 クラルテ

<http://www.plaza-for.jp>

〒102-0085 東京都千代田区六番町15番地

TEL 03-3265-8111（代表）

今年も数名の先生方にご出席していただく予定です。

連絡先：幹事 大成建設株式会社 土木本部 土木設計部

天野喜勝

〒163-0606 東京都新宿区西新宿1-25-1

TEL 03-5381-5418

E-mail: amanoy@ce.taisei.co.jp

6) 農学部同窓会関東支部新規卒業者の歓迎会

昨年に続き関東支部では、名大農学部および大学院を今年卒業し、関東地域に來られた方を対象に歓迎会を開催します。昼食会を兼ねた懇談会で新卒者の参加は無料です。

日 時：平成30年5月26日（土） 11:00～15:00予定

場 所：学士会館

申込方法：支部ホームページに掲載してあります。

担 当：支部事務局長 春日井 治

メールアドレス: hp-tanto@nua-alumkanto.net

支部ホームページ: <http://www.nua-alumkanto.net/index.html>

7) 農学部同窓会関東支部第21回総会

日 時：平成30年11月17日（土） 13:30～17:30

場 所：学士会館 203号室

内 容：会員及び名大農学部関係者から研究や活動について講演をいただきます。詳細は、支部ホームページに掲載してあります。

担 当：関東支部長 石川靖文

メールアドレス: alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

支部ホームページ: <http://www.nua-alumkanto.net/index.html>

○名大遠州会

名大遠州会第23回同窓会・第12回総会

日 時：平成30年6月2日（土） 18:00～

場 所：オークラアクトシティホテル浜松

連絡先：名古屋大学遠州会同窓会事務局長 原田憲道

E-mail: ensuhurd@yahoo.co.jp

○関西支部

第13回総会、懇親会

関西支部では、下記の日程で第13回総会、懇親会を開催いたします。大学から松尾総長、和田代表幹事にもご出席いただきます。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちいたしております。

日 時：平成30年5月12日（土） 14:00～19:00

場 所：中央電気倶楽部

大阪市北区堂島浜2-1-25 TEL 06-6345-6351

ご挨拶：藤井眞澄（名古屋大学全学同窓会関西支部長）

*講演会（5階大ホール）

講演者：深川美里（名古屋大学大学院理学研究科准教授・宇宙物理学研究室赤外線グループ）

題 目：「宇宙における惑星系の誕生」（仮）

*総会（5階大ホール）

和田壽弘（名古屋大学全学同窓会代表幹事）題目：全学同窓会活動報告

松尾清一（名古屋大学総長）題目：未定

*懇親会（3階大食堂）立食形式（予定）

連絡先：関西支部事務局長：脇田喜智夫

（御所南法律事務所 TEL 075-253-0777）

E-mail: office@goshominami.jp

関西在住会員の皆さまには、追って講演内容、参加費等の詳細を、個別にご案内いたします。また、全学同窓会ホームページでもお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

○名大農学部同窓会

平成30年度名古屋大学農学部同窓会の総会、講演会、懇親会

○総会、講演会（講師：理化学研究所 吉木 淳 先生）

日 時：平成30年6月9日（土） 14:00～16:00

場 所：名古屋大学農学部 第3講義室

会 費：無料

○懇親会

日 時：平成30年6月9日（土） 16:30～18:30

場 所：名古屋大学内“花の木”ミーティングルーム

会 費：1,000円

詳細は農学部同窓会セコイア会 HP (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) にてご確認ください。

連絡先：農学部同窓会 総務 中川 優

メールアドレス: yu@agr.nagoya-u.ac.jp

訃報

2002年(平成14年)に創設された名古屋大学全学同窓会の当初より監事を務めていただいた光岡朗先生が、平成30年2月9日にご逝去されました。平成29年11月20日に心筋梗塞で倒れられ、手術をされましたが脳梗塞を併発され意識が戻ることがありませんでした。享年83歳でした。公認会計士として、30歳で事務所を立ち上げられ、ずっと現役で活躍され、多くの後輩も育て上げられました。全学同窓会の監事として、無償で会計監査をしていただくとともに、私が代表幹事のときに全学同窓会の運営に関しても多くのご助言をいただきました。特に、設立時の基金を取り崩しての運営について懸念され、ご助言によって、名古屋大学カード(同窓会カード)の事業収益を工夫することにより、大学支援を続けながら、単年度会計を黒字にすることができました。この結果を大変喜ばれ、褒めていただきました。名古屋大学全学同窓会への貢献は多大なものがあり、厚くお礼申し上げます。ご冥福を心よりお祈りいたします。

名古屋大学全学同窓会副会長 伊藤義人

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**15,500名**を超えています。



年会費永年無料! 家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる! 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEBからのご入会を希望の方
名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00~17:00)

●カード優待サービスの企業を募集しています。

●ニューズレターへの企業広告を募集しています。

いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

和田代表幹事の新体制の下、初のホームカミングデイが開催されました。ロンさんの司法大臣就任、沖さんの林野庁長官就任など、本学同窓生の活躍が目立つ誌面となりました。「ナゴすけ」くんにはぜひ今後も活躍して欲しいと思います。今後も卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお祈りいたします(全学同窓会広報委員会)。

NUAL Newsletter No.29 平成30(2018)年3月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会